

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	91	学校名	県立守谷高等学校						課程	全日制		学校長名	櫻井 隆之			
教頭名	高野 美有紀								事務(室)長名	菅澤 浩明						
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	54
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	118	120	114	104	104	107			336	331	18				
	科															
科																

2 目指す学校像

<p>(1) 知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身ともに健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校</p> <p>(2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路指導ができる学校</p> <p>(3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校</p>

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた、きめ細かなキャリア教育や多彩な特別活動を通して、就職から大学進学までの進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒

別紙様式1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒一人一人の特性に応じた授業が展開されているが、ICT 機器を取り入れた授業については、教員のスキルにも差があり、研修等を通して実践力を高める必要がある。	生徒の学ぶ意欲を高めるために、ICT 機器を適切に取り入れた授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを実践する。
進路指導	進学・就職ともほぼ 100%の達成率であった。大学一般入試にチャレンジする生徒もおり、進学意識の高い生徒も増えてきている。	適切な進路情報の提供や個別の指導を通して、自己の興味・適性を踏まえた主体的進路選択を支援する。
生徒指導	問題行動等の数は年々減少しており、規律ある生活習慣が身についてきているが、SNS 上のトラブルや交通ルールを守れない場面がみられる。	信頼関係を構築し、自立した生徒の育成を目指す。安全教室等を通じて、交通事故の未然防止に努める。
特別活動	生徒会活動・部活動に積極的に参加し、よい成果を残している生徒が増えている。キャリア教育の一環として、活動を記録・蓄積している。	部活動加入率は 54%であった。魅力ある部活動の工夫を通して、部活動参加率の向上を目指す。活動の記録を生かし、学習や生活への意欲につなげる
開かれた学校づくり	学校からの情報発信を進め、保護者や地域との連携を図っている。守谷市小中高連携を進めている。	HP や PTA 会報による積極的な情報発信に努めるとともに、スポーツや芸術、啓発活動について地域や近隣小中学校との連携を進める。
働き方改革	昨年度の平均超過勤務時間数は、6月が 25 時間、10月が 29 時間であり、大幅に改善がみられた。	行事の見直しと ICT 機器の活用により、校務の効率化を図る。

5 中期的目標

<p>1 ICT 機器を活用するとともに、生徒の実態に応じた授業を行うことで、教師の指導力の向上を図り、生徒一人一人の深い学びの具現化を目指す。</p> <p>2 3年間を見通した進路指導の計画を点検・改善し、組織的・断続的な指導を行うことによって、生徒のよりよい進路希望実現を目指す。</p> <p>3 学校生活全般を通し、日常的な面接指導に取り組むことで、生徒と教師の信頼関係を構築し、生徒の基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚、公共の場におけるマナーの向上を目指す。</p> <p>4 生徒主体による活動（HR 活動、生徒会活動、部活動）の活性化により、活力と潤いのある学校づくりを目指す。</p> <p>5 本校の魅力を積極的に広報するとともに、保護者や地域との連携を深め、地元で信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>6 教師が担うべき業務を整理するとともに、効率化を図ることによって、仕事と生活の調和のとれた職場づくりを目指す。</p>
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
授業改善を主とした学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器を活用した授業の研修会を設け、研究・実践を通して授業改革に努め、授業アンケートでの満足度 80%以上を目指す。 ② すべての教員が年 1 回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。 ③ 新課程での観点別評価について研究を重ね、評価を学習改善へつなげられるように、授業展開を工夫する。
生徒の希望や資質・適性に 応じた進路実現	④ キャリアガイダンスを計画的、組織的、系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。 ⑤ 面談を通して生徒の希望及び資質・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路希望を支援する。
基本的な生活習慣の確立	⑥ きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。 ⑦ 規則正しい生活の習慣化を図り、遅刻・欠席者を減らして転退学者の減少を目指す。 ⑧ 薬物乱用防止や SNS 上でのトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。
特別活動・部活動の活性化	⑨ ホームルーム活動、学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒の主体性を大切に活動を支援する。生徒会アンケートを通して、学校満足度を調査し、満足度 70%以上を目指す。 ⑩ キャリアパスポートを活用することで、生徒自身が自らの学びを見通しをたて、事後に振り返ることで主体的に学びに向かう力を育む。
校外への広報と連携の充実	⑪ HP や PTA 会報などによる情報発信を適切に行い、本校の魅力を伝える。 ⑫ 保護者との連携をさらに深めるとともに、地域の活動に積極的に参加したり、近隣小中学校との交流を進めたりすることによって、地域社会との連携の充実を図る。
創立 40 周年記念事業の成功	⑬ 令和 4 年は本校の創立 40 周年の節目にあたるので、周年事業を盛り上げ、次の 10 年を見据えた本校の目指す方向を模索する。
働き方改革	⑭ 質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために、学校や地域の実情を踏まえ、教師が担うべき業務を整理し、適正化を図る。 ⑮ 朝会の簡素化や会議資料のペーパーレス化など、仕事の削減・効率化に努める。